

**Oracle® Enterprise Single Sign-on
Logon Manager**

ユーザーガイド

バージョン 11.1.1.2.0

E15719-02

2010年11月

このプログラム(ソフトウェアおよびドキュメントを含む)には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致し兼ねます。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段(電子的または機械的)、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software—Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかくる目的で使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

ドラフトのアルファ版およびベータ版ドキュメントはプレリリース状態のものです。これらのドキュメントは、デモおよび暫定使用のみを目的としたものです。タイプミスやデータの不正確さなど、いくつかの誤りが存在することがあります。このドキュメントは予告なく変更する場合がありますが、当ソフトウェアを使用するハードウェアに限定するものではありません。オラクル社はプレリリースのドキュメントに対して、いかなる目的や方法においても保証しません。またこのドキュメントを使用したことによって損失、費用および損害が発生した場合も一切責任を負いかねますのでご了承ください。

Oracle、JD Edwards、PeopleSoft、Siebellは米国Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありえます。

このプログラムは、サード・パーティ第三者のWebサイトへのリンクやし、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社はその第三者のWebサイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。それら当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。サード・パーティ第三者の製品またはサービスを購入した際の場合は、サード・パーティ第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、サード・パーティ第三者の製品とおよびサービスの品質、契約の遂行履行(製品の納品、またはサービスの提供、保証義務を含む)に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

目次

略称と用語.....	4
ESSO-LM について.....	5
このガイドの使用.....	5
はじめに.....	6
システムトレイ アイコン メニュー.....	6
システムトレイ メニューのオプション.....	7
シャットダウン ESSO-LM.....	7
タイトル バー ボタン メニュー.....	7
Logon Manager.....	9
言語設定.....	9
ESSO-LM のセットアップ – セットアップ ウィザード.....	11
セットアップ ウィザード タスクの完了.....	11
第 1 のログオン方法.....	13
第 1 のログオン方法の変更.....	13
第 1 のログオン方法の確認.....	15
第 1 のログオン方法のインストール.....	15
アカウントの管理.....	16
マイ アカウント.....	17
資格情報を共有するアカウント.....	17
複数のアカウントの追加.....	17
資格情報が設定されていないアカウント.....	18
Logon Managerを使用して選択したアカウントをセットアップするには.....	19
Windows アプリケーションのログオンの追加.....	19
一覧されていない Windows アプリケーションのログオンの設定.....	20
Web サイトのログオンの追加.....	22
一覧されていない Web サイトのログオンの追加.....	23
ホスト/メインフレーム アプリケーションのログオンの追加.....	25
自動プロンプトを使用したアカウントのセットアップ.....	26
アカウントの変更.....	27
[ログオンの選択] ダイアログボックス.....	28
[ログオンを再試行] ダイアログボックス.....	29
ログオン ループ.....	30
設定.....	31
設定:[応答] タブ.....	31
設定:[認証] タブ.....	32
設定:[表示] タブ.....	33
設定:[除外] タブ.....	34
パスワードの管理.....	36
パスワードの変更.....	36

略称と用語

以下は、一般的に使用される略称と用語の一覧です。

略称または用語	正式名称
管理コンソール	ESSO-LM Administrative Console
Agent	Logon Manager
FTU	初回利用ウィザード
ESSO-AM	Oracle Enterprise Single Sign-on Authentication Manager
ESSO-Anywhere	Oracle Enterprise Single Sign-on Anywhere
ESSO-PG	Oracle Enterprise Single Sign-on Provisioning Gateway
ESSO-KM	Oracle Enterprise Single Sign-on Kiosk Manager
ESSO-LM	Oracle Enterprise Single Sign-on Logon Manager
ESSO-PR	Oracle Enterprise Single Sign-on Password Reset

ログオンとアカウント

ログオンとアカウントは、ESSO-LM およびこのドキュメント全体を通じて、相互に置き換えが可能なものとして使用されています。

認証方式と第 1 のログオン方法

認証方式は、ESSO-LM に対するプラグイン モジュールです。第 1 のログオン方法は、ユーザーが使用を選択した認証方式です。複数の認証方式をインストールできますが、第 1 のログオン方法として選択できるのは 1 つです。

ESSO-LM について


Oracle Enterprise Single Sign-on Logon Manager (ESSO-LM) を使用すると、デスクトップ コンピュータやネットワーク、またインターネット上のパスワードで保護されたすべてのアプリケーションにパスワード 1 つでログオンできます。これは、Windows、Web、ベンダー独自のアプリケーション、ホストやメインフレームのアプリケーションなど実質上すべてのアプリケーションで、追加設定することなく（プログラミングや追加のネットワーク インフラストラクチャは不要）動作します。

ESSO-LM は、インテリジェント エージェント ソフトウェアです。アプリケーションまたは Web サイトごとのユーザー名/ID、パスワードその他の「資格情報」を保存して、ログオン要求があったときに自動的に応答します。

このガイドの使用

このユーザー ガイドは、ESSO-LM を使用してアプリケーションに必要な資格情報を管理しているユーザーを対象としています。既に、Windows の一般的な操作（たとえば、アプリケーション ウィンドウのサイズ変更）および ESSO-LM を使用するアプリケーションのログオン手順は熟知していることを前提としています。

はじめに

ESSO-LM をインストールすると、画面右下角の Windows システムトレイに ESSO-LM トレイ アイコン  が表示されます。このアイコンが表示されない場合は、次の手順で ESSO-LM を起動します。

1. [スタート]、[プログラム] の順にクリックします。
2. [Oracle]、[ESSO-LM] の順にポイントします。
3. [ESSO-LM] をクリックします。

これで、ESSO-LM トレイ アイコンが Windows システムトレイに表示されます。「システムトレイメニューのオプション」を参照してください。

ワークステーションに ESSO-LM ソフトウェアがインストールされると、[セットアップ ウィザード] が、第 1 のログイン情報を入力するための手順を順番に示します。

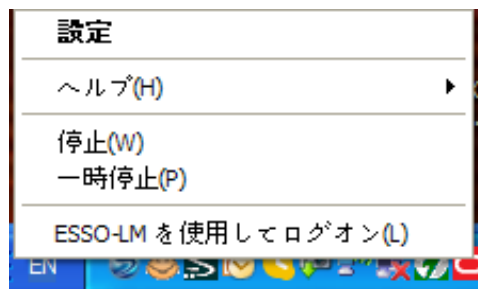
この手順は、プログラムの初回起動時に実行します。

このガイドの以降の部分では、以下のトピックを取り上げます。

- LogonManager の使用
- 第 1 のログイン方法
- アカウントの管理
- 設定
- パスワードの管理

システムトレイアイコンメニュー


Windows システムトレイの ESSO-LM トレイ アイコンをクリックすると、以下で説明するプログラム機能のショートカットメニューが表示されます。



このアイコンが表示されない場合は、次の手順で ESSO-LM を起動します。

1. [スタート]、[プログラム] の順にクリックします。
2. [Oracle]、[ESSO-LM] の順にポイントします。
3. [ESSO-LM] をクリックします。

システムトレイメニューのオプション

設定	Logon Managerを起動します。Logon Managerは、保存されているアカウントの表示、アカウントの追加、削除、修正、さらに、構成設定の管理を行います。
ヘルプ	以下のオプションのサブメニューを表示します。 Oracle Enterprise Single Sign-on Logon Manager – ESSO-LM のヘルプを表示します。 バージョン情報 – ESSO-LMに関するバージョン情報を表示します。
シャットダウン	ESSO-LMをシャットダウンします。
一時停止	自動プロンプト機能や自動認識機能、およびその下の ESSO-LM メニュー オプションを使ったログオンなど、ESSO-LM ログオンをオフにします。
ESSO-LMを使用してログオン	<p>ログオン要求に対し、ESSO-LMを介して情報を提供します。自動認識がオフの場合は、このオプションを使用して ESSO-LM にログオンできます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  自動認識が有効な場合、ESSO-LM は自動的にログオン要求を認識し、保存されているログオン情報を入力します。 </div> <p>アプリケーションや Web サイトのログオンがまだセットアップされていない場合は、セットアップするように ESSO-LM から要求されます。</p>

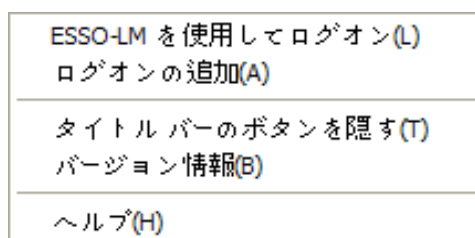
シャットダウン ESSO-LM

ESSO-LM をシャットダウンするには、トレイ アイコンをクリックし、ショートカット メニューから **[シャットダウン]** を選択します。

タイトル バー ボタン メニュー

すべてのアプリケーション ウィンドウのタイトル バーに ESSO-LM タイトル バー ボタンを配置できます。タイトル バー ボタンを使用すると、既に設定済みのアプリケーションや Web サイトにすばやくログオンしたり、新しいログオンを追加したりすることができます。

ログオンを使用したり追加したりするために、タイトル バー ボタンがショートカット メニューに表示されるように設定できます。また、メニューを省略してワンクリック ログオン コマンドとしてタイトル バー ボタンを使用することもできます。



タイトル バー ボタンを表示または非表示にするには

1. [Logon Managerを開きます。](#)
2. **[設定]** ダイアログボックスで、**[表示]** タブをクリックします。
3. **[すべてのウィンドウ タイトルに ESSO-LM ボタンを表示します]** をオンにして、タイトル バー メニューをアクティブ化します。
4. **[[タイトル バー] ボタンからドロップダウン メニューを表示します]** チェックボックスをオンにするとタイトル バー ボタンのショートカット メニューがアクティブになります。このチェックボックスをオフにすると、メニューは非アクティブになります。

タイプになります。このオプションがオフの場合にタイトル バー ボタンをクリックすると、アクティブなアプリケーションへのログオンが開始されます。


5. 変更が完了したら、以下のいずれかを実行します。
 - a. **【適用】** をクリックして、変更を確定し（[設定] ダイアログボックスを閉じずに）、別の設定タブを選択します。
 - b. **【キャンセル】** をクリックして、変更を破棄します。

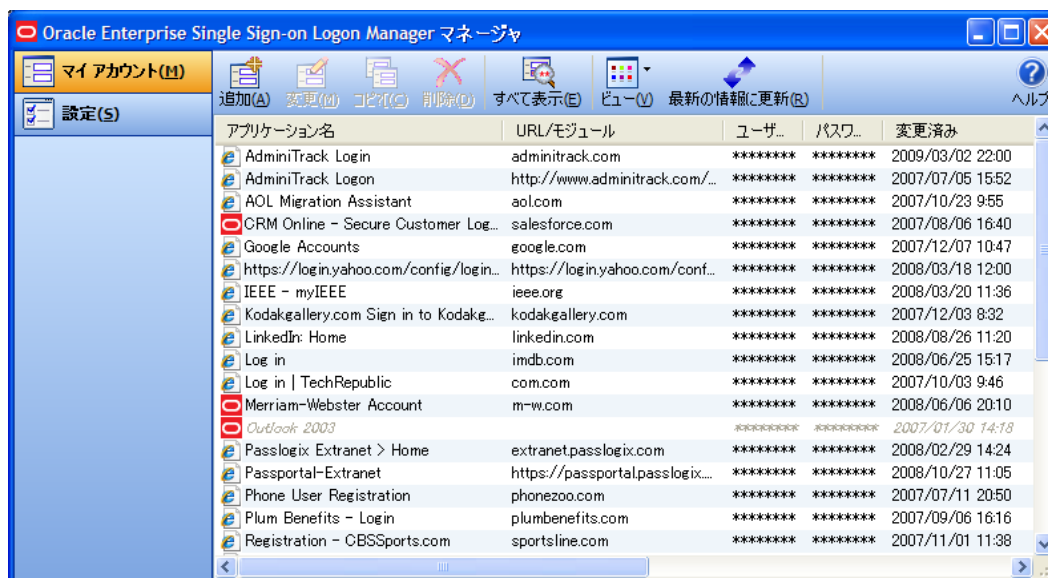


タイトル バー ボタンとメニューはいつでも非表示にできます。非表示にするには、任意のアプリケーションのタイトル バーにあるタイトル バー ボタンをクリックし、**【タイトル バーのボタンを隠す】**を選択します。

Logon Manager

Logon Managerは、保存されているアカウントの表示、アカウントの追加、削除、修正、さらに、構成設定の管理を行います。

Logon Managerを表示するには、Windows システムトレイで ESSO-LMトレイ アイコン  をクリックし、ショートカットメニューを表示します。**[設定]** をクリックします。



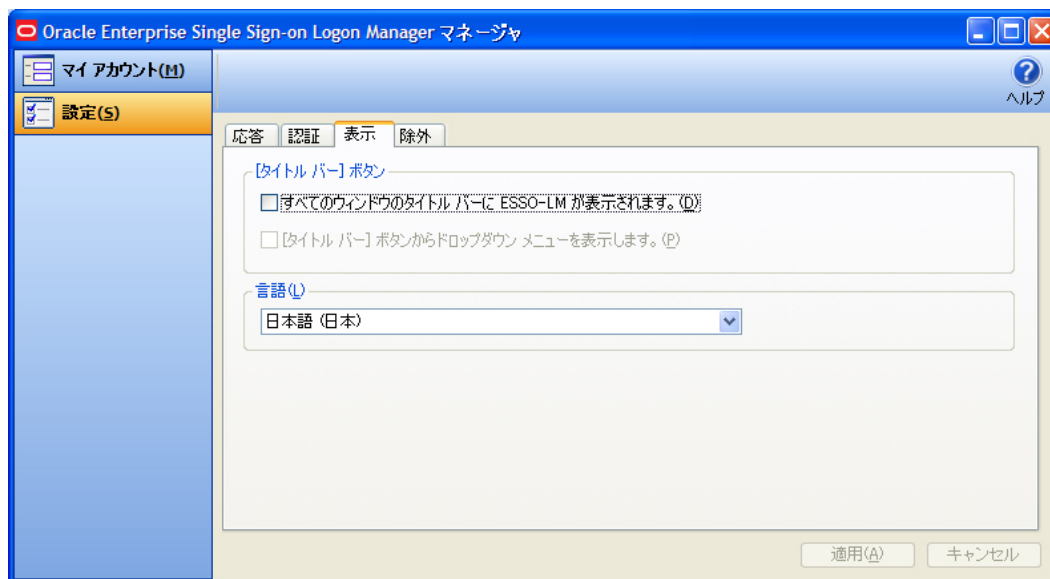
- アカウントを追加または作成すると、使用可能なアカウントが Logon Managerの **[マイ アカウント]** タブに表示されます。
- Logon Managerの構成オプションは、**[設定]** タブにあります。

言語設定

ESSO-LM Agent は、実行しているバージョンやインストールされている言語パックに応じて、さまざまな言語で実行することができます。

構成によっては、Logon Manager を通じて Agent の言語を変更できます。

1. Logon Managerを開きます。
2. **[設定]** パネルを開き、**[表示]** タブをクリックします。
3. 使用可能な言語は、**[言語]** ドロップダウンリストにあります。



ESSO-LM Agent で使用する目的の言語をクリックします。すべての [ESSO-LM Agent] ダイアログボックスとヘルプ画面が選択した言語で表示されます。

ESSO-LM のセットアップ – セットアップ ウィザード

ユーザーが ESSO-LM の使用を開始する前に、セットアップ ウィザードが、確実に ESSO-LM に必要な情報がすべて揃っているかどうかをチェックします。これを、初回利用 ウィザードともいいます。ESSO-LM を使用するには、要求された情報を入力する必要があります。



セットアップ ウィザードをキャンセルした場合は、ウィザードを完了するまで、ESSO-LM を起動しようとするたびにセットアップ ウィザードが表示されます。

セットアップ ウィザード タスクの完了

このウィザードに従って、以下のタスクを 1 つ以上実行できます。

1. ログオン方法を選択して、自分自身を新規 ESSO-LM ユーザーとして確立します。
2. 既存のログオン情報と設定を復元します。
3. 特定のアプリケーション用のログオン情報を追加します。



セットアップ ウィザードは、選択したインストール オプションやネットワークの構成に応じて、上記のタスクの一部またはすべてを省略することがあります。

既存バックアップの復元

1. 既存の ESSO-LM 設定をバックアップしてある場合は、**[設定の既存のバックアップを復元する]** チェックボックスをオンにします。このオプションを選択すると、ESSO-LM は格納された設定を使用してセットアップ プロセスを完了します。
2. [\[次へ >\]](#) をクリックして続行します。

実行するセットアップ タスク

このページでは、ESSO-LM のローカル インストールに必要なセットアップ タスクの一覧を示します。

[\[次へ >\]](#) をクリックして、セットアップを開始します。

ログオン方法の選択

1. ドロップダウン リスト ボックスから、第 1 のログオン方法で使用する認証方式を選択します。通常のインストールでは、これは **Windows Logon Windows にログオンすることで ESSO-LM にもログオンできるようになるプラグイン**です。つまり、Windows パスワードを使用して、パスワード保護されたアプリケーションにアクセスします。
2. ネットワークのリソースと管理方法に応じて、第 1 のログオン方法として、次に示すような他の方式を選択することもできます。
 - Windows Logon v2 Windows にログオンすることで SSO にもログオンできるようになるプラグイン。Windows ログオン v.2 を選択した場合は、パスフレーズを尋ねる 1 つ以上の質問が表示されます。これは、セキュリティを強化するために使用されます。
 - LDAP LDAP ディレクトリにログオンすることで SSO にもログオンできるようにするプラグイン。
 - LDAP v2 Windows にログオンすることで SSO にもログオンできるようになるプラグイン。LDAP v2 を選択した場合は、パスフレーズを尋ねる 1 つ以上の質問が表示されます。これは、セキュリティを強化するために使用されます。
 - Authentication Manager Authentication Manager を使用すると、複数のログオン方法を使用して SSO に対する認証できるようになります。
 - Smart Card MS-CAPI 対応スマート カードを使用して SSO にログオンできるプラグイン。
 - Read-Only Smart Card 読み取り専用スマート カードを使用して SSO にログオンできるプラグイン。
 - Entrust Entrust PKI および Entelligence クライアントにログオンすることで ESSO-LM にログオンできるようになるプラグイン。
 - RSA SecurID RSA SecurID トークンが生成するワンタイム パスワードを使用して SSO にログオンできるプラグイン。
 - Proximity Card 近接カードを使用した認証をサポートする認証方式プラグイン。

3. 選択が終了したら、[次へ] をクリックして続行します。
4. 詳細については、「第 1 のログオン方法」を参照してください。

第 1 のログオン方法の選択

第 1 のログオン方法として、Windows 認証を選択した場合は、Windows ネットワーク ログオン プロンプトが表示されます。表示されたユーザー名とドメインに対応する Windows ネットワーク パスワードを入力し、[OK] をクリックします。

スマートカードの挿入

第 1 のログオン方法として、スマートカードを選択した場合は、スマートカード プロンプトが表示されます。スマートカードを挿入し、PIN を入力します。[OK] をクリックします。

回答のパスフレーズの入力

Windows 認証 v.2 を選択した場合は、システムの構成によって、パスフレーズを問う 1 つ以上の質問が表示されます。これは、セキュリティを強化するために使用されます。表示された質問の回答を入力し（文字数に注意）、[OK] をクリックします。



第 1 のログオンを確認するときに [パスフレーズの変更] オプションを選択すれば、後からいつでもパスフレーズを変更できます。

アプリケーション ログオンの追加



このページは、管理者が事前設定されたアプリケーションのリストを提供している場合にのみ表示されます。ここで、各アプリケーションのログオン資格情報を保存できます。

1. 使用するアプリケーションごとに、[ユーザー名/ユーザー ID]、[パスワード]、および要求されたその他の情報を入力します。項目の中には、確認のため再入力する必要のあるものがあります。
2. [次へ] をクリックして続行します。

セットアップ ウィザード 最終確認

セットアップを完了する前に変更する場合は、[戻る] をクリックしてセットアップ ウィザードの前のページに戻ります。

変更しない場合は、[終了] をクリックしてセットアップを完了します。これで、ESSO-LM の使用を開始できます。

第1のログオン方法

初めて ESSO-LM をセットアップするときには、第1のログオン方法（別名「認証方式」）を選択するように求められます。

認証方式に提供した資格情報（ユーザー名/ユーザー ID、パスワード、その他の情報）によって、ユーザーはワークステーションおよびネットワークの許可されたユーザーとして識別されます。

通常、第1のログオンは Windows で、第1のログオンの資格情報は Windows のユーザー名/ユーザー ID、パスワード、およびネットワークドメインになります。

ESSO-LM を使用すれば、大半の Windows アプリケーション、ホストやメインフレームのアプリケーション、パスワード保護された Web サイトなど、パスワードが必要となる他のすべての状況で、第1のログオン方法を使用できます。

第1のログオン情報は、ユーザーが最初にログオンしたユーザーと同一であることを確認するために使用されます。

インストールとリソースに応じて、第1のログオンは以下のいずれかになります。

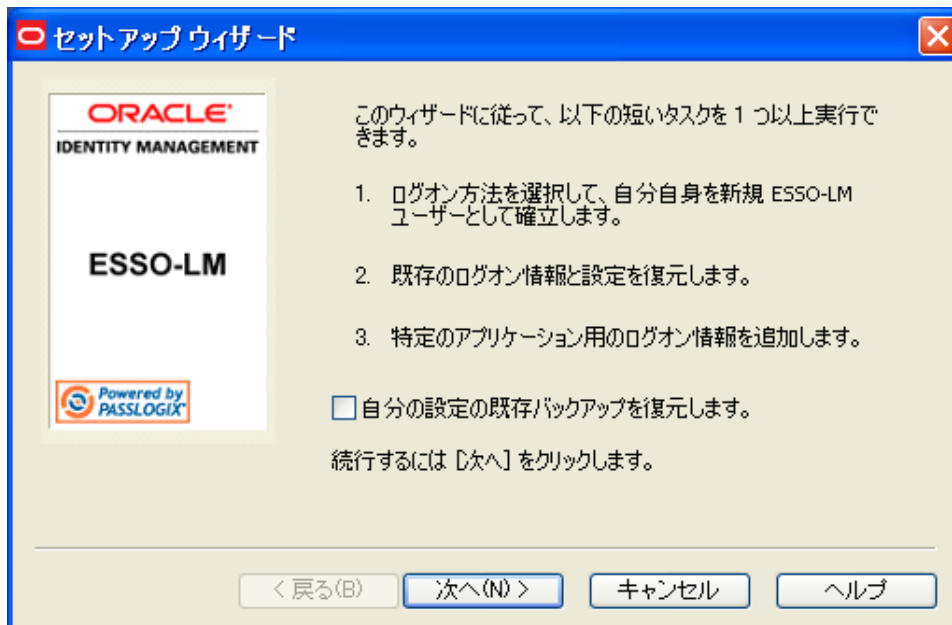
- Windows Logon v2 Windows にログオンすることで SSO にもログオンできるようになるプラグイン。Windows ログオン v2 を選択した場合は、パスフレーズを尋ねる 1 つ以上の質問が表示されます。これは、セキュリティを強化するために使用されます。
- LDAP LDAP ディレクトリ にログオンすることで SSO にもログオンできるようになるプラグイン。
- LDAP v2 Windows にログオンすることで SSO にもログオンできるようになるプラグイン。LDAP v2 を選択した場合は、パスフレーズを尋ねる 1 つ以上の質問が表示されます。これは、セキュリティを強化するために使用されます。
- Authentication Manager Authentication Manager を使用すると、複数のログオン方法を使用して SSO に対する認証できるようになります。
- Smart Card MS-CAPI 対応スマート カードを使用して SSO にログオンできるプラグイン。
- Read-Only Smart Card 読み取り専用スマート カードを使用して SSO にログオンできるプラグイン。
- Entrust Entrust PKI および Entelligence クライアントにログオンすることで ESSO-LM にログオンできるようになるプラグイン。
- RSA SecurID RSA SecurID トークンが生成するワンタイム パスワードを使用して SSO にログオンできるプラグイン。
- Proximity Card 近接カードを使用した認証をサポートする認証方式プラグイン。

第1のログオン方法の変更

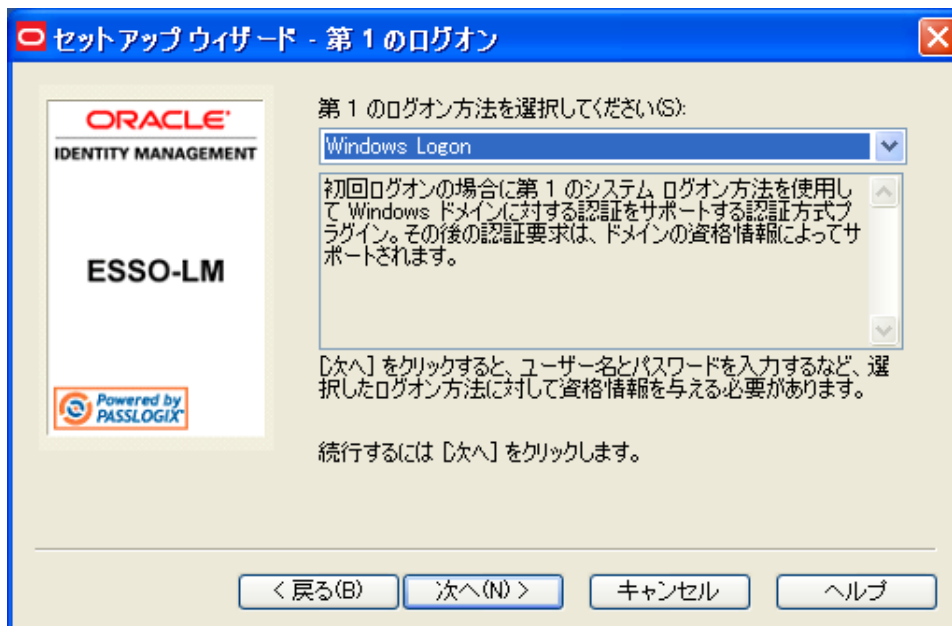
第1のログオン方法はいつでも変更できます。また、認証方式は必要に応じてインストールまたは削除することができます。

Windows システムトレイで ESSO-LM トレイ アイコン  をクリックし、ショートカット メニューを表示します。**[構成]** をポイントし、**[ログオン方法を変更]** をクリックします。

1. **Logon Managerを開きます。**
2. **[設定]** ダイアログボックスで、**[認証]** タブをクリックします。
3. **[第1のログオン方法]** の下で **[変更]** をクリックします。
4. **セットアップ ウィザード** に手順の一覧が表示され、それに従って第1のログオンを変更していきます。**[次へ]** をクリックして続行します。



5. 現在の第 1 のログインを入力するように求められます。第 1 のログイン パスワードを入力し、[OK] をクリックします。
6. セットアップ ウィザードに、[第 1 のログインの選択] ページが表示されます。ドロップダウン リスト ボックスから第 1 のログイン方法を選択し、[次へ] をクリックして続行します。



7. 新しい第 1 のログインの資格情報を入力するように求められます。ユーザー ID とパスワードを入力し、追加情報を入力または選択して、[OK] をクリックします。



新しい第 1 のログインがスマートカードの場合は、カードをリーダーに挿入し、PIN (Personal Identification Number) を入力するように求められます。新しい第 1 のログインが生体認証装置の場合は、指紋リーダーに指を置くよう求められます。

8. セットアップ ウィザードが、新しい認証に成功したことを確認します。以下のどちらかを実行します。
 - **[キャンセル]** をクリックして、変更をキャンセルし、以前の第 1 のログオン方法に戻します。
または
 - **[終了]** をクリックして、第 1 のログオンの変更を完了します。**[第 1 のログオン方法]** ダイアログボックスが表示されます。**[閉じる]** をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

第 1 のログオン方法の確認

ユーザーが最初にこのワークステーションにログオンしたユーザーと同じユーザーであることを定期的にチェックするように ESSO-LM を設定することができます。

パスワード保護されたアプリケーションを起動しており、最後の自動ログオンから一定期間（デフォルトは 15 分間）経過した場合は、ESSO-LM が第 1 のログオン パスワードを入力するように要求します。パスワード以外のログオン方法（スマート カード、トークン、生体認識）を使用している場合、該当する認証方法（PIN、指紋）を行うように求められます。

ESSO-LM は、ユーザーがアプリケーション パスワードを変更したときや他のログオン管理タスクを実行したとき、またはアプリケーション ログオン自体で確認が必要となった場合にも、このチェックを自動的に実行します。

[設定] ダイアログボックスの **[認証]** タブで **[タイマ]** の設定を変更すると、間隔を変更したり、この機能をオフに切り替えたりすることができます。



使用する第 1 のログオンと管理者が適用する設定に応じて、最初に ESSO-LM をセットアップしたときに提供した回答のパスフレーズを入力するように求められます。

パスフレーズを使用している場合は、回答のパスフレーズを変更するオプションも選択可能となります。回答のパスフレーズを変更するには、**[確認のための質問の回答を変更する]** チェックボックスをオンにします。

第 1 のログオン方法のインストール

ESSO-LM をインストールした場合は、1 つ以上の認証方式をインストールできます。すべての認証方式をインストールしなかった場合は、以下の手順でそれらをインストールできます。現在インストールされている認証方式は、**[第 1 のログオン方法]** ダイアログボックスに一覧されます。「**第 1 のログオン方法**」を参照してください。



第 1 のログオン方法をインストールまたは削除するための以下の手順は、通常は、管理者が実行する手順として予約されています。

第 1 のログオン方法の追加インストール

1. コンピュータのオペレーティング システムに応じて、**[コントロール パネル]** を開いて **[プログラムの追加と削除]** を選択するか、**[プログラム]** と **[機能]** をクリックします。
2. **ESSO-LM** を選択します。
3. コンピュータのオペレーティング システムに応じて、**[変更]** または **[追加と削除]** をクリックします。ESSO-LM インストール ウィザードが表示されます。
4. 画面を読み、**[次へ]** をクリックします。
5. **[変更]** オプションを選択し、**[次へ]** をクリックします。
6. **[認証方式]** の隣にある + をクリックして、リストを展開します。
7. インストールするパスワード ウィンドウの隣にある X アイコンをクリックします。
8. ショートカット メニューから、**[この機能をローカル ハードドライブにインストールする]** を選択します。
9. さらに認証方式を追加するには、ステップ 7 および 8 を繰り返します。
10. **[次へ]** をクリックします。
11. 画面を読み、**[次へ]** をクリックします。
12. 画面の指示に従います。

アカウントの管理

ESSO-LM では、2 通りの方法で、アカウントを作成できます。

- [Logon Manager](#)でアカウントを作成することも可能です。これによって、資格情報を設定、編集、および管理することができます。
- [自動プロンプト機能](#)を使用して「即座に」アカウントを作成することができます。この場合、アプリケーションのログオン要求を検出し、ログオンと同時に資格情報を保存できます。











[Windows]キーを押しながら **L** を入力して (Windows XP システム以外の場合のみ)、ESSO-LM にアカウントをセットアップさせることもできます。

ターゲットアプリケーションが、認証するために 3 つ以上のフィールドへの入力を求める場合、この手順には管理者の協力が必要となります。管理者にお問い合わせください。

マイアカウント

「マイ アカウント」パネルでは、保存されているアカウントがすべて表示され、アカウントの追加、削除、コピーおよび修正を行うことができます。リストから目的のアプリケーションを右クリックすると表示されるショートカット メニューを使えば、[変更]、[コピー]、[削除] コントロールをすばやく選択できます。このパネルにあるコントロールは次のとおりです。

	追加	[新規ログオン] ダイアログボックスが表示され、新しいアカウントをセットアップできます。事前設定済みのアカウントが使用可能な場合は、[複数のアプリケーションの追加] オプションが表示されます。 「複数のアプリケーション ログオンの追加」を参照してください。
	変更	[アカウントの変更] ダイアログボックスが表示され、個々のアカウントのアカウント情報または自動動作を変更できます。目的のアプリケーションを右クリックして、ショートカットメニューから [変更] を選択しても、同じ機能にアクセスできます。
	コピー	選択したアカウントを複製します。リストには、新規アカウントが表示されます。アプリケーション名の後ろに「(2)」が付いています。目的のアプリケーションを右クリックして、ショートカットメニューから [コピー] を選択しても、同じ機能にアクセスできます。
	削除	選択したログオンを Logon Manager から削除します。「選択した項目をシステムから削除してもよろしいですか?」と確認メッセージが表示されます。[はい] または [いいえ] を選択します。目的のアプリケーションを右クリックして、ショートカットメニューから [削除] を選択しても、同じ機能にアクセスできます。
	すべて公開	このアイコンは、少なくとも 1 つのアカウント ログオンが定義されている状態で [詳細] ビューを選択すると有効になります。[すべて公開] を選択すると、Logon Manager にすべてのユーザー名/ユーザー ID とパスワードが表示されます(この機能は、管理者がアクティブ化している場合に使用できます)。
	表示	アカウント表示を変更できます。少なくとも 1 つのアカウント ログオンが定義されている必要があります。アカウントの表示形式は、アイコン表示またはリスト表示、あるいは詳細表示を選択できます (Windows エクスプローラの [表示] オプションと同じです)。[詳細] を選択すると、[すべて公開] オプションが有効になります。
	更新	管理者が指定した変更内容でアカウント設定を更新します(管理者がこの機能を有効にしている場合のみ使用できます)。
	ヘルプ	ESSO-LM のヘルプファイルを起動します。

資格情報を共有するアカウント

管理者によって、2 つ以上のアカウントが 1 つのパスワード グループ内の同一のユーザー名とパスワードを共有するように設定されている場合があります。1 つのアカウントの資格情報が変更されると、同じグループの他のアカウントの資格情報も変更されます。

場合によっては、1 つのアプリケーションで複数の資格情報が必要となることがあります (例: Microsoft Outlook で複数のメール アカウントを使用している場合)。この場合には、(それぞれが異なる資格情報を持つ) 追加の「ID」を対象外として除外する必要があります。すでに追加されているアプリケーションを対象に新しいログオンを作成する場合には、新しいログオンを除外するかどうかを指定できます。

複数のアカウントの追加

管理者が事前設定されたアカウントのリストを提供している場合は、Logon Manager の [追加] ボタンをクリックすると、ドロップダウン オプションとして [複数のアプリケーションの追加] が表示されます。このオプションを選択すると、これらの新しいアカウントを追加できます。

資格情報が設定されていないアカウント

Logon Managerでは、一部のアカウントが、斜体のテキストでグレー表示され、グレーのアイコンが表示されることがあります。このようなアカウントを使用するか、変更（選択して**【変更】**をクリック）しようとする、以下のメッセージが表示されます。

現在 ESSO-LM には、アプリケーションに対応する資格情報が設定されていません。

このメッセージは、通常、ESSO-LM が旧バージョンからアップグレードされたときに表示されます。つまり、資格情報は安全に保存されていますが、（資格情報の保存先を ESSO-LM に指定する）アプリケーション ログオン構成 もアップグレードする必要があります。更新されたアカウントを取得する方法については、管理者に問い合わせてください。

Logon Managerを使用して選択したアカウントをセットアップするには

新しいアカウントをセットアップするには、Logon Managerで **[追加]** をクリックします。[新規ログオン] ダイアログボックスが表示されます。

以下の手順は、[新規ログオン] ダイアログボックスを使用して、アプリケーション タイプごとにアカウントを追加する方法を示しています。

各タイプの手順はほとんど同じです。いずれの手順でも、アプリケーションを識別し、ユーザー名/ユーザー ID、パスワード、およびアプリケーションで入力求められるその他の情報を入力します。

ESSO-LM に事前設定されていない Windows アプリケーションのログオンを追加する場合は、ログオン フィールドをポイントおよびクリックして、[ユーザー名/ユーザー ID]、[パスワード] の各フィールドに情報を入力するように求められます。

また、1 つのアプリケーションに複数のログオンを作成するためのオプションもあります。これは、1 つのアカウントに複数の電子メール アカウントがある場合など、アプリケーションに 2 セット以上の資格情報がある場合に便利です。

2 セット以上の資格情報があるアプリケーションへのログオンが検出されると、ESSO-LM によって **[ログオンの選択]** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、使用する資格情報を選択できます。

Windows アプリケーションのログオンの追加

アプリケーションの選択

1. [新規ログオン] ダイアログボックスで、**[Windows]** オプションを選択し、さらにドロップダウン リスト ボックスからアプリケーションを選択します。追加するアプリケーションが一覧されていない場合は、**[一覧されていない Windows アプリケーションのログオンを設定するには]**を参照してください。
2. **[次へ]** をクリックします。[新規ログオン] ダイアログボックスが表示され、資格情報の入力求められる。

資格情報の入力

1. アプリケーションの **[ユーザー名/ユーザー ID]**、**[パスワード]** を入力し、さらに **[パスワードの確認]** にパスワードを再度入力します。**[公開]** をクリックすると、パスワードを表示できます。



セットアップするアプリケーションの要件によっては、追加のフィールドへの入力が必要とされることがあります (Microsoft Outlook の **[ドメイン名]** など)。

同様に、アプリケーションによっては、ユーザー名/ユーザー ID が不要なこともあります。その場合には、**[ユーザー名/ユーザー ID]** フィールドはグレー表示されます。

RSA SecurID アプリケーションをセットアップしている場合、**[PIN]** と **[ソフトウェアトークン]** の入力が必要とされます。PIN は、RSA ミドルウェアを通じてセットアップされます。**[ソフトウェアトークン]** フィールドは、使用可能なトークンのシリアル番号を検出すると、自動的に入力されます。

2. 以下のいずれかを実行します。
3. **[終了]** をクリックします。ESSO-LM によって **Logon Manager** に戻ります。作成したアカウントが一覧されています。
4. 設定が使用できる場合には、**[別の資格情報セットの追加]** を選択し **[終了]** をクリックします。ESSO-LM がログオンを Logon Manager に追加し、**[新規ログイン]** ダイアログボックスを再度表示します。



パスワードグループに属する既存のアプリケーション用に新しいログインを追加する場合は、**[パスワード共有グループから除外]** を選択します。このアプリケーションを対象にして初めて作成するログインの場合は、このチェックボックスはオフのままにしておきます。「**資格情報を共有するアプリケーション**」を参照してください。

一覧されていない Windows アプリケーションのログオンの設定

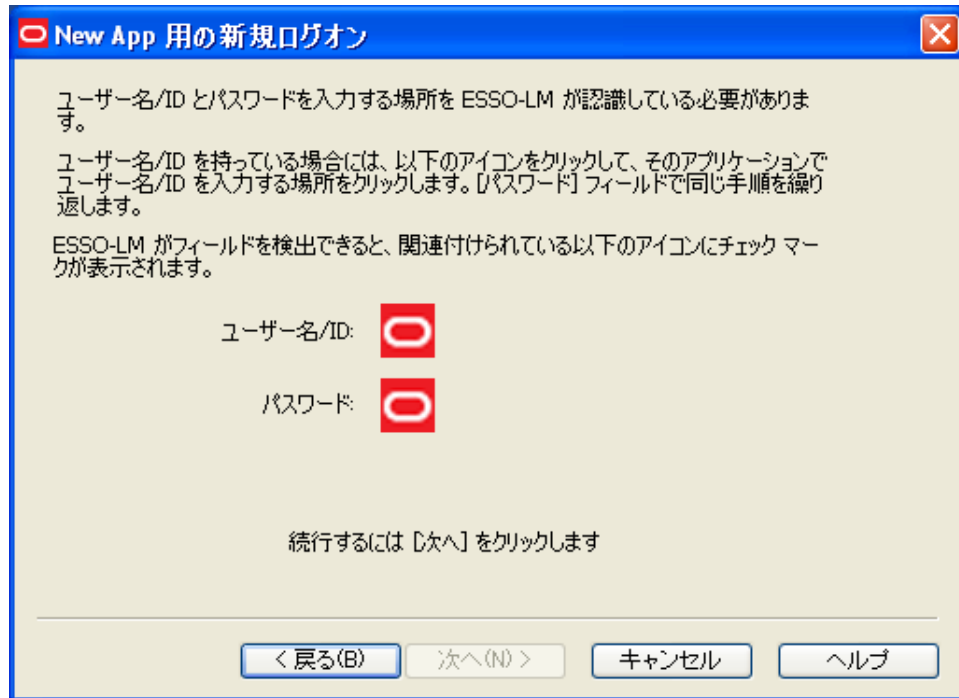
1. ログオンをセットアップする Windows アプリケーションを開きます。これが、ターゲット アプリケーションになります。



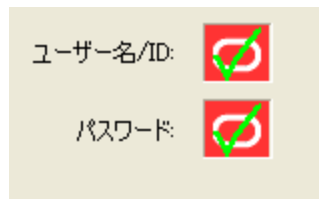
ターゲットアプリケーションで認証に3つ以上のフィールドへの入力を求める場合は、管理者にこの手順をセットアップしてもらう必要があります。管理者にお問い合わせください。

2. ターゲット アプリケーションのログオン ダイアログボックスが表示されたら、ESSO-LM に切り替えます。ESSO-LM とターゲット アプリケーションのログオン ダイアログボックスが両方同時に確認できるように、ウィンドウの位

- 置を調整します。
3. [新規ログオン] ダイアログボックスで、[Windows] オプションを選択し、さらにドロップダウン リスト ボックスから [リストにないアプリケーション] (デフォルト) を選択します。
 4. ターゲット アプリケーションの [アプリケーション名] と [説明] (オプション) を入力します。
 5. [次へ] をクリックします。
 6. [新規ログオン] ダイアログボックスに 2 つのアイコンが表示されます。



7. [ユーザー名/ユーザー ID] アイコンをクリックし、その後、ターゲット アプリケーションのログオン ダイアログボックスで [ユーザー名] フィールドまたは [ユーザー ID] フィールドをクリックします。アイコン上に緑色のチェック マークが表示されます。
8. [パスワード] アイコンをクリックし、その後、ターゲット アプリケーションのログオン ダイアログボックスで [パスワード] フィールドをクリックします。アイコン上に緑色のチェック マークが表示されます。



9. [次へ] をクリックします。[新規ログオン] ダイアログボックスが表示され、資格情報の入力が必要になります。

資格情報の入力

1. アプリケーションの **[ユーザー名/ユーザー ID]**、**[パスワード]** を入力し、さらに **[パスワードの確認]** にパスワードを再度入力します。**[公開]** をクリックすると、パスワードを表示できます。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - **[終了]** をクリックします。ESSO-LM によって Logon Manager に戻ります。作成したログインが一覧されています。
 - または
 - 設定が使用できる場合には、**[別の資格情報セットの追加]** を選択し **[終了]** をクリックします。ESSO-LM がログインを Logon Manager に追加し、**[新規ログイン]** ダイアログボックスを再度表示します。




RSA SecurID アプリケーションをセットアップしている場合、**[PIN]** と **[ソフトウェアトークン]** の入力が必要です。PIN は、RSA ミドルウェアを通じてセットアップされます。**[ソフトウェアトークン]** フィールドは、使用可能なトークンのシリアル番号を検出すると、自動的に入力されます。

Web サイトのログインの追加

1. **[新規ログイン]** ダイアログボックスで、**[Web]** オプションを選択し、さらにドロップダウンリスト ボックスから Web サイトを選択します。追加する Web サイトが一覧されていない場合は、**「一覧されていない Web サイトのログインを追加するには」**を参照してください。
2. **[次へ]** をクリックします。**[新規ログイン]** ダイアログボックスが表示され、資格情報の入力が必要です。


資格情報の入力

1. Web サイトの **[ユーザー名/ユーザー ID]**、**[パスワード]** を入力し、さらに **[パスワードの確認]** にパスワードを再度入力します。**[公開]** をクリックすると、パスワードを表示できます。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - **[終了]** をクリックすると、Logon Manager に戻ります。作成したログインが一覧されています。
 - または
 - 設定が使用できる場合には、**[別の資格情報セットの追加]** を選択し **[終了]** をクリックします。ESSO-LM によってログインが Logon Manager に追加され、**[新規ログイン]** ダイアログボックスが再び表示されます。

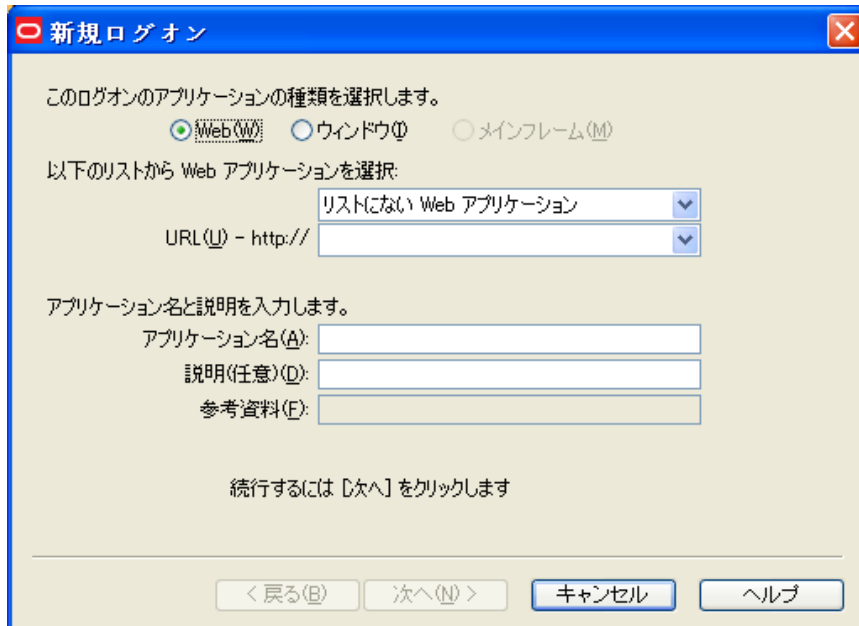
 パスワードグループに属する既存のアプリケーション用に新しいログオンを追加する場合は、**パスワード共有グループから除外**を選択します。このアプリケーションを対象にして初めて作成するログオンの場合は、このチェックボックスはオフのままにしておきます。「資格情報を共有するアプリケーション」を参照してください。

一覧されていないWeb サイトのログオンの追加

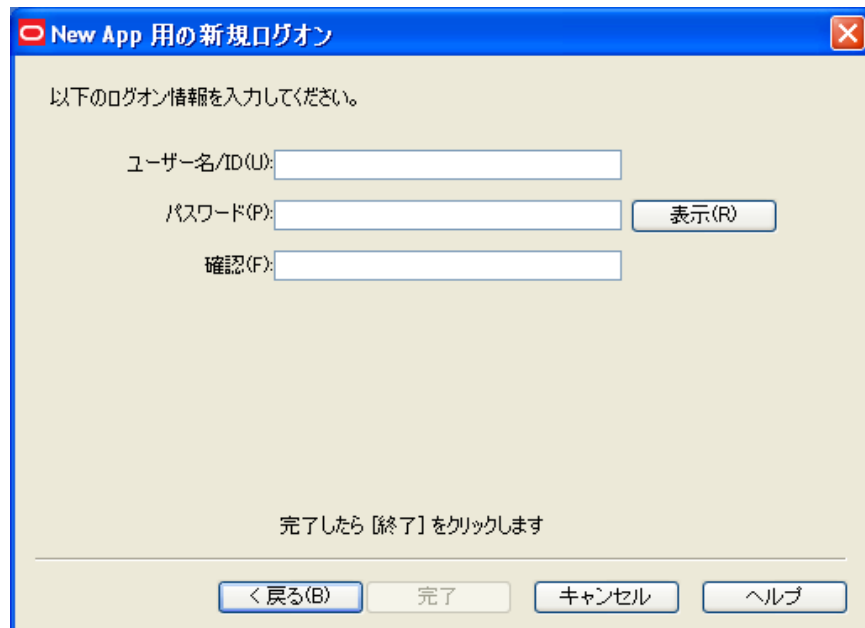
1. [新規ログオン] ダイアログボックスで、**[Web]** オプションを選択します。ドロップダウン リスト ボックスから **[リストにない Web アプリケーション]** (デフォルト) を選択します。Web アドレスを入力するためのテキスト ボックスが表示されます。

 ターゲット Web サイトが、認証するために3つ以上のフィールドへの入力を求める場合、この手順には管理者の協力が必要となります。管理者にお問い合わせください。

2. ログオンをセットアップする Web サイトの URL を入力します。
3. **[アプリケーション名]** と **[説明]** (オプション) を入力します。



4. **[次へ]** をクリックします。[新規ログオン] ダイアログボックスが表示され、資格情報の入力が必要となります。



New App 用の新規ログイン

以下のログイン情報を入力してください。

ユーザー名/ID(U):

パスワード(P):

確認(F):

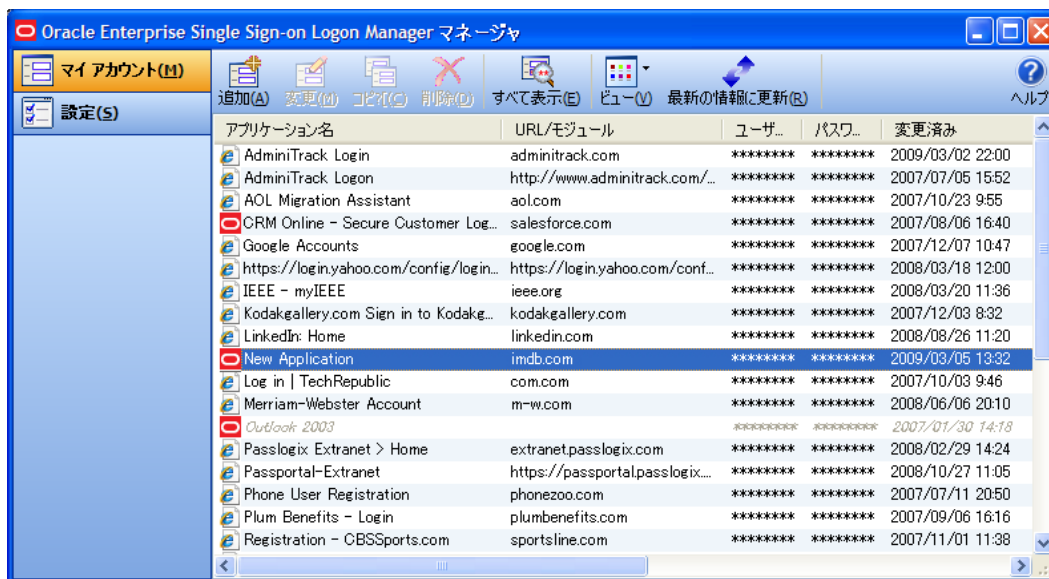
完了したら [終了] をクリックします

資格情報の入力

- Web サイトの [ユーザー名/ユーザー ID]、[パスワード] を入力し、さらに [パスワードの確認] にパスワードを再度入力します。[公開] をクリックすると、パスワードを表示できます。
- 以下のいずれかを実行します。
 - [終了] をクリックします。ESSO-LM によって Logon Managerに戻ります。作成したログオンが一覧されています。

または

- 設定が使用できる場合には、[別の資格情報セットの追加] を選択し [終了] をクリックします。ESSO-LM によってログオンが Logon Managerに追加され、[新規ログイン] ダイアログボックスが再び表示されます。



アプリケーション名	URL/モジュール	ユーザ...	パスワ...	変更済み
AdminiTrack Login	adminitrack.com	*****	*****	2009/03/02 22:00
AdminiTrack Logon	http://www.adminitrack.com/...	*****	*****	2007/07/05 15:52
AOL Migration Assistant	aol.com	*****	*****	2007/10/23 9:55
CRM Online - Secure Customer Log...	salesforce.com	*****	*****	2007/08/06 16:40
Google Accounts	google.com	*****	*****	2007/12/07 10:47
https://login.yahoo.com/config/login...	https://login.yahoo.com/conf...	*****	*****	2008/03/18 12:00
IEEE - myIEEE	ieee.org	*****	*****	2008/03/20 11:36
Kodakgallery.com Sign in to Kodakg...	kodakgallery.com	*****	*****	2007/12/03 8:32
LinkedIn: Home	linkedin.com	*****	*****	2008/08/26 11:20
New Application	imdb.com	*****	*****	2009/03/05 13:32
Log in TechRepublic	com.com	*****	*****	2007/10/03 9:46
Merriam-Webster Account	m-w.com	*****	*****	2008/06/06 20:10
Outlook 2003		*****	*****	2007/01/30 14:18
Passlogix Extranet > Home	extranet.passlogix.com	*****	*****	2008/02/29 14:24
Passportal-Extranet	https://passportal.passlogix...	*****	*****	2008/10/27 11:05
Phone User Registration	phonezoo.com	*****	*****	2007/07/11 20:50
Plum Benefits - Login	plumbenefits.com	*****	*****	2007/09/06 16:16
Registration - CBSsports.com	sportsline.com	*****	*****	2007/11/01 11:38

ホスト/メインフレーム アプリケーションのログオンの追加

1. [新規ログオン] ダイアログボックスで、[メインフレーム] オプションを選択します。
2. ターゲット アプリケーションの [アプリケーション名] と [説明] (オプション) を入力します。
3. [次へ] をクリックします。[新規ログオン] ダイアログボックスが表示され、資格情報の入力が求められます。

資格情報の入力

1. Web サイトの [ユーザー名/ユーザー ID]、[パスワード] を入力し、さらに [パスワードの確認] にパスワードを再度入力します。[公開] をクリックすると、パスワードを表示できます。
2. 以下のいずれかを実行します。
 - [終了] をクリックすると、Logon Manager に戻ります。作成したログオンが一覧されています。
または
 - 設定が使用できる場合には、[別の資格情報セットの追加] を選択し [終了] をクリックします。ESSO-LM がログオンを Logon Manager に追加し、[新規ログオン] ダイアログボックスを再度表示します。

自動プロンプトを使用したアカウントのセットアップ

自動プロンプト機能を使用するには、[設定] ダイアログボックスの [応答] タブで機能が有効になっている必要があります。

1. Logon Managerを開きます。
2. [設定] ダイアログボックスで、[応答] タブをクリックします。
3. [自動プロンプト] チェックボックスがオンになっていることを確認します。オフの場合は、オンにしてから、[送信] をクリックします。



自動プロンプト機能は、ESSO-LM のインストール時にデフォルトで有効になっています。管理者は、すべてのユーザーを対象に自動プロンプトを有効または無効にすることができます。

自動プロンプトが有効になっている場合、ユーザーがパスワード保護されたアプリケーションや Web サイトにアクセスすると、ESSO-LM によって自動的に検出されます。そのアプリケーションや Web サイトに必要な資格情報がすでに提供されている場合、ESSO-LM によって該当するフィールドに資格情報が自動的に入力されるため、ユーザーはそのままログオンできます。

資格情報がすでに提供されているアカウントの例:

資格情報が提供されている Lotus Notes を起動します。Lotus Notes を開くとすぐに、資格情報の入力を求めるログオン画面が ESSO-LM によって認識されます。

ESSO-LM によって該当するフィールドにパスワードを自動的に入力され、[OK] ボタンがクリックされます。ユーザーは自動的に Lotus Notes にログオンできます。

資格情報がまだ提供されていないアカウントの例:

他方、まだ資格情報が提供されていないアプリケーションまたは Web サイトを起動した場合、

まだ資格情報が提供されていないアプリケーションが検出されると、ESSO-LM によって [新規ログオン] ダイアログボックスが表示され、アプリケーションのログオン情報を追加するように求められます (管理者によって「自動プロンプト」機能が無効にされている場合を除きます)。


[新規ログオン] ダイアログボックスが表示されたら、以下のいずれかを実行します。

- アプリケーションのログオンを追加する場合は、表示されたフィールドに情報を入力して **[OK]** をクリックします。ESSO-LM によって情報が記憶され、次回にアプリケーションを起動したときには自動的にログオンできます。
- アプリケーションのログオンを後で追加する場合は、**[キャンセル]** (このボタンが表示された場合) をクリックします。この場合、ESSO-LM によって、次回にアプリケーションを起動したときにログオンを追加するように求められます。
- アプリケーションが検出されても新しいログオンの作成が求められないようにするには、**[無効]** (このボタンが表示された場合) をクリックします。ESSO-LM によってアプリケーションのログオンを追加するように求めるプロンプトは表示されなくなり、[設定] パネルの **[除外]** タブの無効なアプリケーションのリストにアプリケーションが追加されます。



アプリケーションを無効にした場合でも、ESSO-LM トレイアイコンから **[ESSO-LM を使ったログオン]** を選択すれば再びアプリケーションを有効に設定できます。
次回にアプリケーションを起動したときに資格情報の入力を求めるように ESSO-LM からプロンプトが表示されるようにするには、**[除外]** リストからアプリケーションを削除してください。

アカウントの変更

Logon Manager の **[変更]** アイコン  をクリックするか、アカウントをダブルクリックすると、個々のログオンについてのアカウント情報や自動動作を変更できます。このダイアログでは、以下を実行できます。

- ログオンによってアプリケーションに送信される **[ユーザー名/ユーザー ID]**、**[パスワード]**、またはその他のフィールドを変更する。
- 以前のパスワードを復元する。ログオンパスワードを変更した場合、次にそのログオンの **[ログオン プロパティ]** ダイアログボックスを開くと、**[以前のパスワードに戻す]** ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、最近の変更前に使用していたパスワードに戻すことができます。
- アプリケーション情報を編集する。**[ユーザー名/ユーザー ID]**、**[パスワード]**、**[アプリケーション]**、**[名前]** および **[説明]** を入力します。
- 選択したアカウントについて、自動応答オプションのオン/オフを切り替える。
- **自動認識**。この設定は、アプリケーションが資格情報を要求すると、ESSO-LM がそれを自動的に提供するかどうかを指定します。

この機能が有効になっていると、ESSO-LM がアプリケーションや Web サイトを認識して自動的にログオンします。

この機能が無効になっている場合は、ログオン要求に応答するように手動で ESSO-LM に要求する必要があります。これは、システム トレイ アイコン メニューから実行できます。**[ESSO-LM を使ったログオン]** を選択します。

[自動認識] チェックボックスには、次の 3 つの状態があります。

- チェックボックスがオフの場合、選択したアプリケーションについてこの機能が無効であることを意味します。
- チェックボックスがオンの場合、選択したアプリケーションに対して機能が有効であることを意味します。
- チェックボックスが緑色の場合、選択したアプリケーションに対する動作がグローバル設定で定義されていることを意味します。

- **自動送信**。この設定は、ESSO-LM が資格情報をアプリケーションに自動的に送信するかどうかを指定します。たとえば、**[OK]**、**[送信]** を選択するか、**Enter** キーを押します。



[自動認識] オプションや **[自動送信]** オプションが表示されるかどうかは、システムの構成によって決まります。

すべてのアプリケーションを対象に自動認識をグローバルに設定するには、**[設定] ダイアログボックスの [応答] タブ**にある **[自動認識]** オプションを使用します。

このダイアログボックスの設定は、グローバルな **[自動認識]** 設定を上書きします。

アカウントを変更するには

1. Logon Managerを開きます。
2. **[マイアカウント]** パネルで、**[認証]** タブをクリックします。
3. リストにあるアカウントを強調表示した上で、**[変更]** アイコンをクリックするか、アカウントをダブルクリックします。選択したアカウントの変更ダイアログボックスが表示されます。

Visual SourceSafe

ユーザー名/ID(U):

パスワード(P):

アプリケーションの種類: Windows - 記載なし

アプリケーション名(A):

説明(D):

オプション:

☐ **[自動認識(Z)]** - v-GO SSO は、アプリケーションがこのログオン情報を要求したことを自動的に認識し、その情報を提供します。

☒ **[自動送信(S)]** - v-GO SSO は、このログオン情報をアプリケーションに自動的に送信します (たとえば、[OK] や [Enter] を選択します)



アカウントがグレーのテキストで表示されている場合は、**[変更]** をクリックすると以下のメッセージが表示されます。

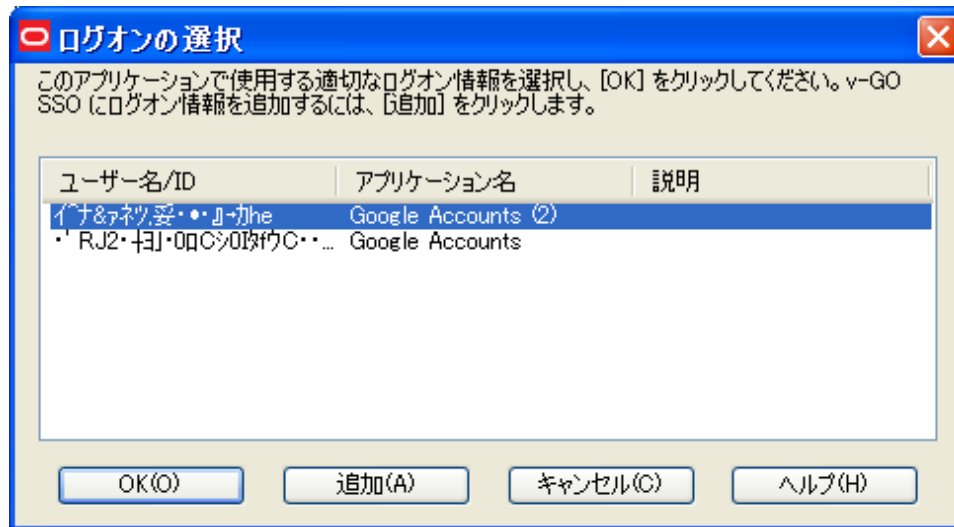
「現在 ESSO-LM には、アプリケーションに対応する資格情報が設定されていません。」
詳細については、「[ログオンが設定されていない資格情報](#)」を参照してください。

4. 必要に応じて情報を変更します。
5. 変更が完了したら、**[OK]** をクリックします。

[ログオンの選択] ダイアログボックス

同一アカウントについて 2 セット以上の資格情報を持つ場合があります。その場合は、すべてのアカウントを認識してから、ログオンに使用するアカウントの選択を求めるように ESSO-LM を設定できます。これを実行するには、アカウントごとに個別の認証情報を作成する必要があります。

アプリケーションまたは Web サイトを開くと、ESSO-LM が [ログオンの選択] ダイアログボックスを表示して、ログオンの選択を要求します。



列名ヘッダをクリックすると、どの列でもソートできます。ソート順を選択すると、その順序が維持され、次にこのダイアログを表示するときにも同じ列がソートされます。*これは、バージョン 10.1.4.1.0 の新機能です。

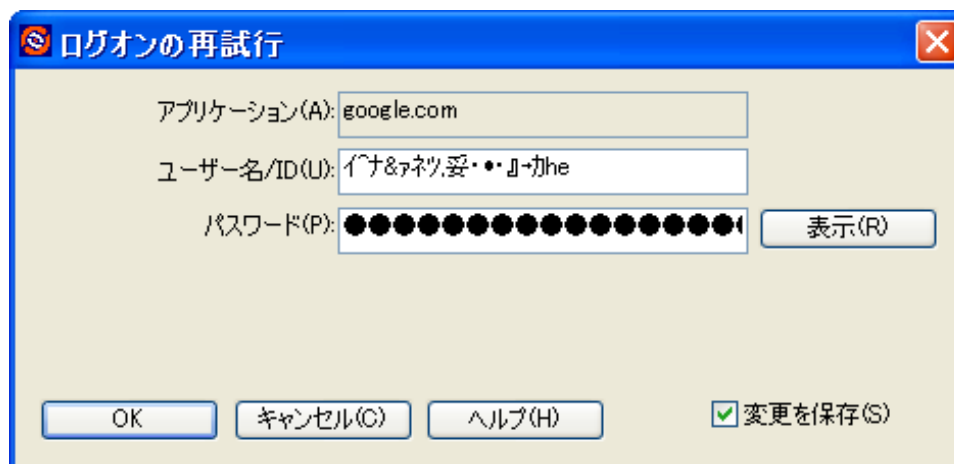
以下のいずれかを実行します。

- ログオンに使用するアカウントを選択して、[OK] をクリックします。
- このアプリケーションに別の資格情報を追加するには、[追加] をクリックします。
- [キャンセル] をクリックしてこのダイアログを閉じます。ESSO-LM は、アプリケーションにログオンさせません。

[ログオンを再試行] ダイアログボックス

自動認識機能を有効にすると、ESSO-LM は、アプリケーションおよび Web サイトからのパスワード変更要求を自動的に検出し、それに応答します。

ログオンのセットアップ時に不正なパスワードを入力したか、または別のコンピュータからアプリケーションのパスワードが変更された場合、ESSO-LM は不正なパスワードを提供します。これが起こると、アプリケーションはログオン要求を繰返し、ESSO-LM は [ログオンを再試行] ダイアログボックスを表示します。



入力したパスワードが間違っている場合や、パスワードが他のコンピュータから変更された場合には、[ログオンを再試行] ダイアログボックスが表示されます。

このダイアログボックスは、[ユーザー名/ユーザー ID]、[パスワード]、および必要な場合は追加のログオンフィールドが正しいかどうかを確認するように求めます。

以下のいずれかを実行します。

- [公開] をクリックすると、入力したパスワードを表示できます。
- 必要に応じてログオン情報を編集し、[OK] をクリックして再度ログオンを試みます。



【変更の保存】 チェックボックスをオンにすると、このアプリケーションまたは Web サイトに次回にログオンしたときに ESSO-LM で同じ資格情報が使用されるように設定できます。入力した新しい資格情報が保存されないようにするには、このオプションをオフにします。

- [キャンセル] をクリックすると、ESSO-LM を再起動するか、Logon Manager で **ログオンプロパティを変更** するまで、アプリケーションまたは Web サイトへのログオン試行は実行されません。

ログオン ループ

Web メール サービスなど、アプリケーションによってはログアウト時にログオン ページを表示するものがあり、そのようなページがあると、ESSO-LM はそのログオン フォームを認識して、自動的にアプリケーションに再ログオンします。このため、終わることなく「ログオン ループ」が繰り返され、アプリケーションからログアウトすることができなくなります。このようなループが発生するのを避けるために、管理者はログオン猶予期間機能を有効にする場合があります。この機能を有効にすると、最後にログオンしてから一定時間は ESSO-LM はアプリケーションにログオンできなくなります。

管理者は、ログアウトしてからアプリケーションに再度ログオンするかどうかを確認するよう ESSO-LM を構成することもできます。どちらの場合も、猶予期間が過ぎるか、ユーザーがアプリケーションを終了させて再起動するかのいずれかが先に発生するまでは、ESSO-LM がアプリケーションに自動的にログオンすることはありません。

ログオン ループが発生している場合は、猶予期間機能の有効化について管理者にお問い合わせください。

*これは、バージョン 10.1.4.1.0 の新機能です。

設定

Logon Managerの [設定] オプションを使用して、ESSO-LM の構成オプションを制御できます。



設定タブはどれも、変更が行われるまで **[適用]** ボタンや **[キャンセル]** ボタンは有効にはなりません。変更を行ったら、**[適用]** をクリックして変更を実行するか、**[キャンセル]** をクリックして変更を破棄することができます。

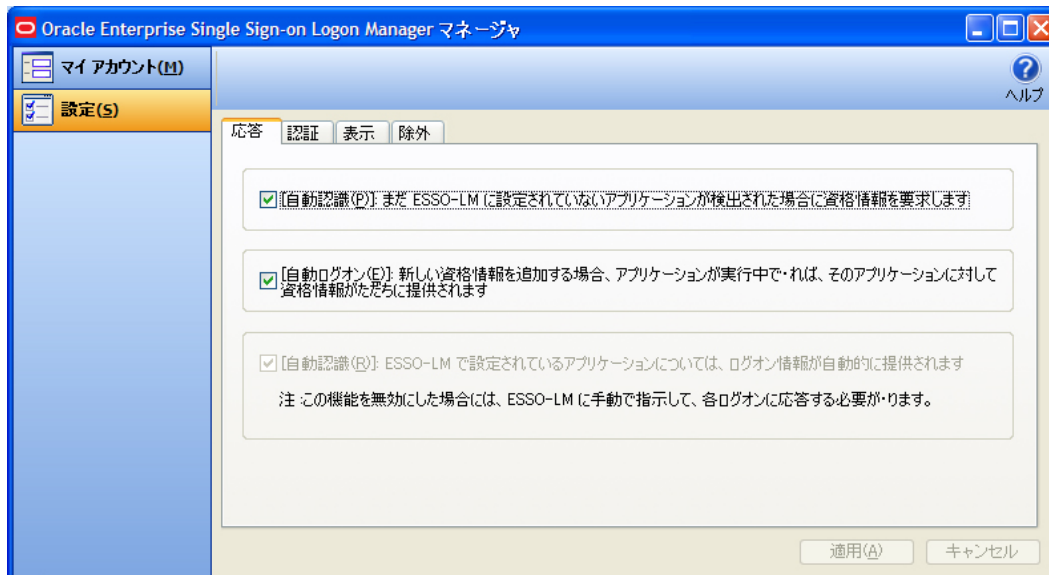
[設定] タブで行った変更は、**[適用]** をクリックすると有効になります。

ESSO-LM 設定を表示または変更するには

1. Logon Managerを開きます。
2. **[設定]** パネルをクリックします。
3. 以下のタブがあります。
 - 応答
 - 認証
 - 表示
 - 除外

設定:[応答] タブ

[応答] タブでは、ESSO-LM のパスワード機能を制御できます。



以下で説明する設定は、管理者によって、有効化、無効化、または上書きされることがあります。

自動プロンプト

[自動プロンプト] 設定では、ESSO-LM で設定されていないアプリケーションからの資格情報要求を検出したときに、ESSO-LM がユーザーに資格情報の入力を求めるかどうかを指定します。

この機能を有効にすると、ESSO-LM がパスワード保護されたアプリケーションや Web サイトを自動的に認識し、「このアプリケーションのログオン情報を ESSO-LM に保存しますか?」というメッセージを表示して確認を要求します。

詳細については、「[自動プロンプトを使用したログオンのセットアップ](#)」を参照してください。

自動ログオン

[自動ログオン] 設定では、資格情報を保存した直後に、ESSO-LM からアプリケーションにその資格情報を提供するかどうかを指定します。

この機能を有効にすると、アプリケーションや Web サイトのアカウントをセットアップしてあれば、ESSO-LM からそれらのアプリケーションや Web サイトにすぐにログオンできます。

自動認識

[自動認識] 設定では、アプリケーションから資格情報が要求されたときに ESSO-LM が情報を自動的に提供するかどうかを指定します。

この機能が有効になっていると、ESSO-LM がアプリケーションや Web サイトを認識して自動的にログオンします。

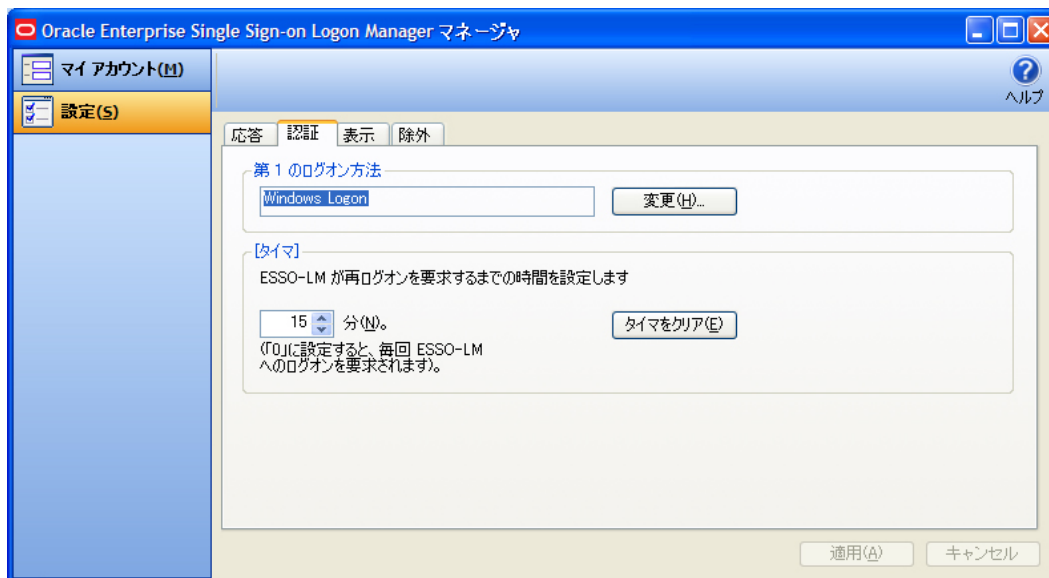
この機能が無効になっている場合は、ログオン要求に応答するように手動で ESSO-LM に要求する必要があります。これは、システムトレイアイコンメニューから実行できます。**[ESSO-LM を使ったログオン]** を選択します。

応答設定を表示または変更するには

1. Logon Managerを開きます。
2. **[設定]** ダイアログボックスで、**[応答]** タブをクリックします。
3. 変更が完了したら、以下のいずれかを実行します。
 - **[適用]** をクリックして、変更を確定し（**[設定]** ダイアログボックスを閉じずに）、別の設定タブを選択します。
 - **[キャンセル]** をクリックして、変更を破棄します。

設定:[認証] タブ

[応答] タブでは、ESSO-LM の認証機能を制御できます。



以下で説明する設定は、管理者によって、有効化、無効化、または上書きされることがあります。

第1のログオン方法

さまざまなログオン方法を介して、ESSO-LM に対する認証を行うことができます。第1のログオン方法は、使用することを選択した認証方法です。複数の認証方式をインストールできますが、第1のログオン方法として選択できるのは1つです。

この設定を通じて、第 1 の認証方式となるログオン方法を選択できます。

ログオン方法を変更するには、**[変更]** をクリックします。**[セットアップ ウィザード 第 1 のログオン]** が表示されます。

詳細については、「[第 1 のログオン方法の変更](#)」を参照してください。

タイマ

ESSO-LM から、一定間隔でログオンを求めてくるようにすることができます。再度ログインする前に、その時間間隔を決めることができます。

上下のや矢印を使用して、時間制限 (0 ~ 999分) を入力します。この時間が経過すると、ESSO-LM は、資格情報に関連する作業を実行する前に、パスワードを入力するように要求します。

タイマが 0 に設定されている場合、ESSO-LM は、資格情報に関連する作業の前に、常にパスワードを入力するように要求します。

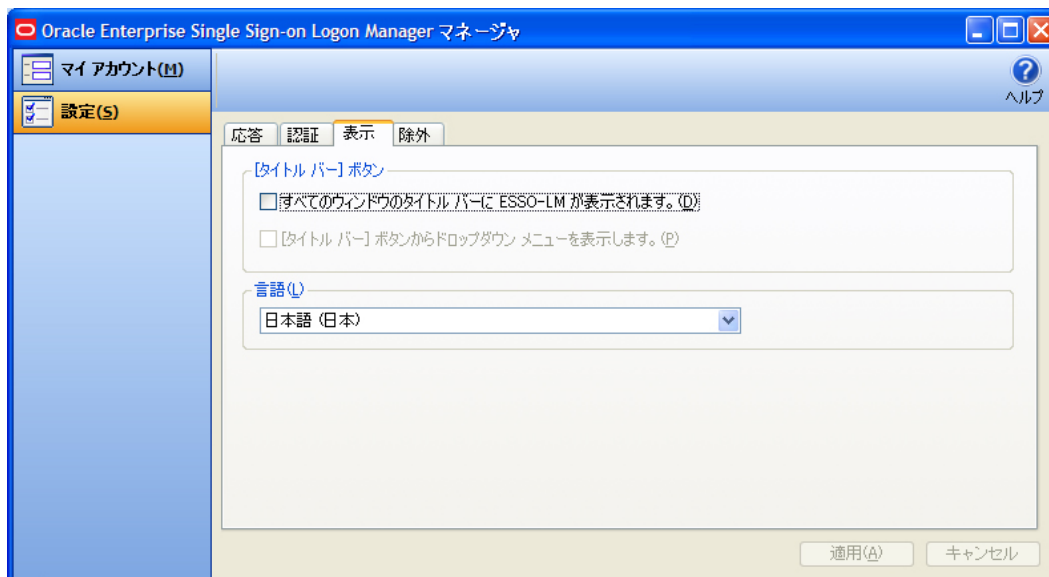
[タイマをクリア] ボタンを使用すると、有効期間が切れるまで待つことなく、資格情報に関連する以降の作業を開始する前に、パスワードの入力が強制されます。

認証設定を表示または変更するには

1. Logon Managerを開きます。
2. **[設定]** ダイアログボックスで、**[認証]** タブをクリックします。
3. 変更が完了したら、以下のいずれかを実行します。
 - **[適用]** をクリックして、変更を確定し (**[設定]** ダイアログボックスを閉じずに)、別の設定タブを選択します。
 - **[キャンセル]** をクリックして、変更を破棄します。


設定:[表示] タブ

[設定] ダイアログボックスの **[表示]** タブでは、ESSO-LM の表示オプションを制御できます。



以下で説明する設定は、管理者によって、有効化、無効化、または上書きされることがあります。

タイトル バー ボタン

[タイトル バー ボタン] 設定をオンにすると、ウィンドウ タイトル バーの右上角の ESSO-LM アイコン  がアクティブ化します。

ダブルクリックすると、このボタンは ESSO-LM にアプリケーションにログオンするよう指示します（システムトレイアイコンメニューの「[を使用してログオン](#)」機能と同一の機能）。

ESSO-LM タイトル バー ボタンをクリックしたときにドロップダウンメニューを表示するオプションもあります。

ESSO-LM タイトル バー ボタンをすべてのウィンドウタイトルバーに表示するよう設定し、ドロップダウンメニューからその他のオプションを選択できるようにするには、[\[すべてのウィンドウタイトルに ESSO-LM ボタンを表示\]](#)と[\[\[タイトルバー\] ボタンからドロップダウンメニューを表示します\]](#)をオンにします。

言語

ESSO-LM Agent は、実行しているバージョンやインストールされている言語パックに応じて、さまざまな言語で実行することができます。

使用可能な言語は、[\[言語\]](#)ドロップダウンリストにあります。

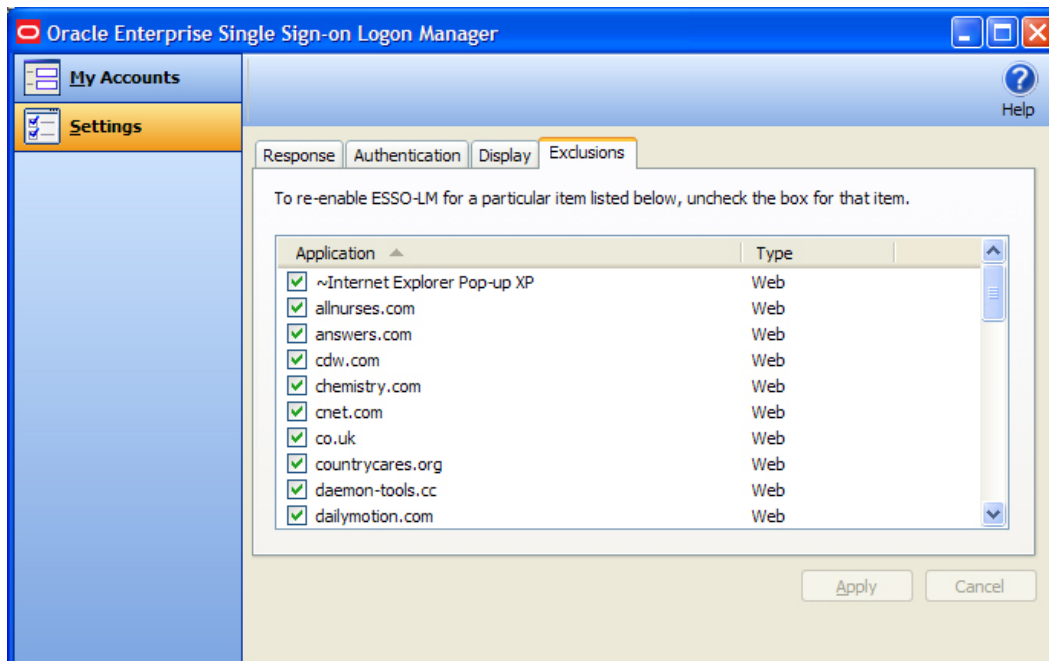
ESSO-LM Agent で使用する目的の言語をクリックします。すべての [\[ESSO-LM Agent\]](#) ダイアログボックスとヘルプ画面が選択した言語で表示されます。

表示設定を表示または変更するには

1. [Logon Managerを開きます](#)。
2. [\[設定\]](#) ダイアログボックスで、[\[表示\]](#) タブをクリックします。
3. 変更が完了したら、以下のいずれかを実行します。
 - [\[適用\]](#) をクリックして、変更を確定し（[\[設定\]](#) ダイアログボックスを閉じずに）、別の設定タブを選択します。
 - [\[キャンセル\]](#) をクリックして、変更を破棄します。

設定: [\[除外\]](#) タブ

[\[除外\]](#) タブを使用して、以前に ESSO-LM に無視するように設定したアプリケーション ログオンについて、[自動プロンプト](#)機能を確認し復元することができます。



以下で説明する設定は、管理者によって、有効化、無効化、または上書きされることがあります。

ESSO-LM アカウントがセットアップされていないパスワード保護されたアプリケーションを起動すると、ESSO-LM は新しいログオンを作成するかどうか確認するメッセージを表示します。

- **[はい]**:ログオンをすぐに作成します。
- **[後で実行]**: 次回作成を要求します。
- **[無効]**:今後このメッセージを表示しません。

[無効]を選択すると、ESSO-LM は、この **[除外]** リストにそのログオン ページを追加します。サイトのチェックボックスをオフにすると、そのアプリケーションをリストから削除できます。削除した場合、ESSO-LM は、次にそのアプリケーションを起動したときに、アカウントを作成するように要求します。



自動プロンプトの使用方法の詳細については、「[自動プロンプトを使用したログオンのセットアップ](#)」を参照してください。

除外されるアプリケーションの自動プロンプトの復元

1. **Logon Manager**を開きます。
2. **[設定]** ダイアログボックスで、**[除外]** タブをクリックします。
3. このパネルには、現在 ESSO-LM が無視するよう設定されているアプリケーションの一覧が表示されます。
4. 自動プロンプトを復元するアプリケーションのチェックボックスをクリックしてオフにし、**[適用]** をクリックします。または、**[キャンセル]** をクリックして変更を破棄します。



項目のチェックボックスがオフのまま **[適用]** をクリックすると、**[除外]** リストから削除した項目は、Logon Managerを閉じるまで一覧に残ります。こうすると、除外を一時的に無効にすることができ、再度有効にするために一覧に追加し直す必要がありません。

5. パスワード保護されたアプリケーションでクリアしたものを次回起動するときに、ESSO-LM はアカウントを作成するかどうかを確認するメッセージを表示します。

パスワードの管理

このセクションでは、ESSO-LM およびターゲット アプリケーションにおけるパスワードの管理と変更の方法について説明します。

ほとんどのアプリケーションでは、いつでもパスワードを変更できます。ただし、一部のアプリケーションでは、定期的に (たとえば 30 日ごと) パスワードを変更する必要があります。ESSO-LM を使用して、これらの変更の適用と追跡ができます。

- [パスワードを自動的に変更する](#)

パスワードの変更

ESSO-LM の自動パスワード変更機能は、推測されやすいパスワードを選択したり、パスワード管理が粗雑になったりする可能性をなくすことでセキュリティを強化します。また、パスワードを作成、変更、および記憶する手間を省くことで、ユーザビリティを高めます。

ESSO-LM は、アプリケーションからのパスワード変更要求を検出します。構成に応じて、ESSO-LM は以下のどちらかを実行します。

1. 管理者が設定したパスワード ポリシー (有効なパスワードであるように制御するルール) に準じた新しいパスワードを自動的に生成する。
2. [パスワードの変更] ダイアログを表示し、パスワード自動生成のオプションの指定や、新しいパスワードの選択を行う。

パスワードは手動で変更する場合もあれば、システムから出されるプロンプトへの対応として、パスワードの変更を求められる場合もあります。どちらの場合も、次の手順に従って行います (ステップ 1 に示すように、例外が 1 つあります)。

1. 管理者によって ESSO-LM が自動的にパスワードを変更するように設定されていないかぎり、アプリケーションがパスワードの変更を要求すると、ESSO-LM は [パスワードの変更] ダイアログを表示します。

パスワードの変更

アプリケーションのパスワードを変更してください

*Web Site

新しいパスワード(N): 生成(G)

確認 (再入力)(C): 表示(B)

アプリケーションパスワードを変更: 送信(S)

パスワード ポリシーのステータス:

- ✗ 8 文字以上にしてください
- ✓ 8 文字以下にしてください
- ✓ 繰り返される 8 文字以下の連続文字を使用できます
- ✓ 繰り返される 7 文字以下の非連続文字を使用できます
- ✓ 数字は使用できません
- ✓ 次の特殊文字が使用できます: なし

終了 キャンセル ヘルプ



アプリケーションからログオンフィールドとパスワード変更フィールドが同じウィンドウに表示されると、ESSO-LM はアプリケーション起動時にログオンするかパスワードを変更するかを選択するよう求められます。ESSO-LM はその選択に応じて、該当する画面を表示します。

2. パスワードを変更するには、以下のいずれかを実行します。
 - a. パスワードを手動で入力し、確認します。



新しい ID パスワードを入力すると、**[パスワード ポリシーのステータス]** が変わります。新しいパスワードが有効と見なされるためには、これらの各ルールに準じている必要があります。パスワードを入力すると、それが準じているルールには自動的にチェックマークが付きます。**すべての**ルールにチェックマークが付くと、パスワードは有効です。すべてのパスワードポリシーと一致すると、**[送信]** ボタンが有効になります。



[特殊文字を許可] ポリシーは、パスワードに特定の特殊文字を使用できるようにすることを示すものです。特殊文字を許可しない場合は、このポリシーは **[許可された特殊文字: なし]** となります。

または

- b. **[生成]** ボタンをクリックして、ESSO-LM に新しいパスワードを自動的に生成させます。
*このボタンは、バージョン 10.1.4.1.0 の新機能です。
3. パスワードを表示するには、**[公開]** をクリックします。
4. **[送信]** をクリックします。
5. アプリケーションでパスワードの変更が受け入れられると、パスワードが承認されたことを示すメッセージが表示されます。**[OK]** ボタンをクリックすると、ESSO-LM がパスワードを保存します。

アプリケーションがパスワードを拒否すると、パスワードが拒否されたことを示すメッセージが表示されます。別のパスワードを入力して再送信するか、**[キャンセル]** ボタンをクリックすることができます。



パスワードが、管理者が設定したパスワード ポリシーに一致しているにもかかわらず、アプリケーションで拒否される場合は、システム管理者にお問い合わせください。